

令和6年度まちづくり懇談会
議事概要

芦屋市自治会連合会

開催日時	令和6年10月25日（金）午後2時—午後4時
開催場所	市民センター401室
出席者数	合計52名〔自治会関係35名 行政7名 議員10名〕
事務局	5名〔市民参画・協働推進課〕

1 主催者あいさつ（芦屋市自治会連合会会長 天井 裕一）

今年度のまちづくり懇談会は、新たに2部制としました。

第1部では、回答書の内容について従来通り市と意見交換を行います。

「こんな方法があるよ」、「こういったことも問題だよ」と自治会同士の情報共有の場にもなればと思います。

第2部では、皆さんが心の中で思っていること、頭の中で考えていること主張したいことをお互いに主張し合って、意見を共有し、行政の方に市民の考えを知ってもらう場にしたいと考えています。

本日は行政の方、芦屋警察交通課長にご臨席賜っております。せっかくの機会ですので、自治会員の皆さまには、いろいろな意見を出していただきたいと思います。

2 市長あいさつ（芦屋市長 高島 峻輔）

令和6年度まちづくり懇談会にたくさんお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、このような場を設けていただきました自治連の皆さまありがとうございます。

地域の中でずっと課題で、なかなか解決できていないというものがまちづくり懇談会の事前質問として挙がってきている状況ではないかなと思います。市としても、解決したいという思いは皆さんと一緒にです。だからこそ、市民の皆さんとの対話をこれからも重視しながらやっていきたいと思っておりますし、ぜひ皆さんのご意見を、皆さんの声を大切にしながら、これからも進めていくことができればと思っております。

本日はよろしく申し上げます。

3 懇談第1部：回答書に係る質疑応答（市との意見交換の場）

(1) テーマ1：芦屋川駅前広場・公園について

(自治会) 公園でのボールやバットの使用制限や使用可能時間帯など、決めごとを制定してほしいという質問に対し、道路・公園課に回答いただいておりますが、実際に独自ルールを決めて運用している公園があるか、教えていただけますでしょうか。

(芦屋市) ボール遊びのルールについては、いろいろと御意見があることは聞いております。基本的には、バットを振るなどの器具の使用とか硬いボールを使用しての野球など、他の利用者に危険があるとか、迷惑になるなどのことはやめていただくように禁止しております。ただし、ボールで遊びたいという声や、やっぱり危ない、何とかしてほしいという声も入ってくるのも事実です。ボール遊びについての独自のルールとして、きっちりとこうだと決まっている公園は特にありませんが、過去には、朝早くからボール遊びで、音がうるさいこともあって、地元の皆さんとも話をして、朝早くは静かに遊ばしようという表現を入れて、ルールを示している公園もあります。皆さんがこうやって使いたいということがあれば、市の道路・公園課にご相談ください。

(自治会) ボール遊びとかのルールですが、時間帯もそうですが、それよりも一緒に遊んでいる小さい子どもから大人まで、硬いボールで片やキャッチボール、片やドッジボール、片や砂場でままごと遊びしている、ボールが飛んできたときにどうするのかという問題があります。

また、住居と隣接している公園の場合、ボールが隣の家に入り、遊んでいる人が勝手に家の敷地に入っていくことで、家によってはセンサーが反応してしまい、いつもベルが鳴るという問題も出てきます。

例えば、三条公園。わざとボールを集会所に目がけて打っている。今、ネットをつけていますが、そうするとそのネットを飛び越えて、屋根に向かってボールを投げている。そういった意味では他の建物に

迷惑もかかります。ネットが破れた場合には、ボールがガラスに当たったりして破損も出てきます。そういったときに困るということで、果たして、時間を含めてルールとして決めていいのかがどうか、一番問題になっているのではと考えるのですが、いかがでしょうか。

(芦屋市) 過去には、ボールが飛び越えないようにフェンスを少し高くしたという事例もあります。高くすると、余計に強くそこに当たってしまう等、一律に対策するのが難しいという部分があります。ただ、言われているように、小さなお子さんがいて、その近くでボール遊びをすると危険なので、その場合は、危険な行為をしないようにお声がけしたりしています。

公園で何が駄目なのかというと、危険な行為とか迷惑をかける行為が条例の3条に書かれております。その部分をどう捉えたらいいのかが、各自治体、各市ともに非常に頭を悩ませています。昔は、遊びが激しい場合は、皆でお声がけし、少し控えてもらったり、子どもたちもあんまりエキサイトしたら駄目だなとなりましたが、最近は、なかなか対応が難しいのも事実です。そういったところで、行政だけでなく、皆さんのお声がけや目が非常に大切かなと思います。また、お互い譲り合うことが非常に大事だと思います。

あれ駄目、これ駄目みたいな公園が増えてきていますが、それが本当にいいのかなというの、全国的にも言われています。その点についても考えていけないと思いますし、皆さんもいい知恵がありましたら、教えていただきたいです。例えば、公園で自転車に乗ったら駄目だよというのがあります。そしたら、自転車の練習をしているのはいいのかみたいな市民さんもおられますので、自転車の練習は大丈夫ですとホームページに出しています。これからも、杓子定規ではなく、そういった部分の工夫をしながら、譲り合っていけたらなと思っております。

(2) テーマ2：信号機・踏切・防犯について

(自治会) 自治会からは、信号機や防犯カメラの設置について要望が数件ありましたが、設置は難しいと回答をいただいております。その理由について、再度説明していただけますでしょうか。

(芦屋市) 市の設置の防犯カメラについては、設置することによって犯罪の発生件数が減少するものではないと分かってきていますので、すぐに増設することは、今のところは考えていません。ただし、既設のカメラの位置を変えるなど移設することは検討できますので、地域の方々と話し合ってください、道路・公園課にご相談ください。

過去、防犯カメラを設置するときに、やっぱり個人の家が映るから嫌だとか、その場所はちょっとやめてほしいみたいなご意見がたくさんございました。防犯カメラを設置する際は、いろんな関係団体さんと一緒に決めていきますので、ちょっと動かすとなれば、そういった方々と設置した経緯も含めて話し合ってくださいたいです。地域の皆さんで話し合った上で、移設したいという場合は、道路・公園課にご相談していただければと思っております。

(自治会) この頃、関東方面で強盗事件が発生しています。ニュースを見て危険を感じている人が自治会内にいるので、防犯カメラの設置を検討してほしい。

(芦屋市) 確かに、報道でもたくさん言われています。平成26年に相模原市や市原市で小学生の連れ去り事件が連続して起こったこともあって、平成28年頃から各市が防犯カメラを設置しだしたのが背景の動きであります。そのときに、阪神間でも、芦屋市でも設置し始めました。阪神間でも、たくさん防犯カメラを設置している市もあれば、芦屋市より少ない市もあります。そこで犯罪発生件数を見たときに、設置しているから犯罪が減っているわけではなくて、設置していないところ

も同じような動きをしているので、防犯カメラを設置することで犯罪が減ることにつながっていないと研究結果が出てきています。なかなか難しいこともありますけど、市は防犯カメラの設置場所を移設することの相談に乗っています。その他に、防犯カメラの補助制度がございまして、皆さんがどうしてもここに付けたいということであれば、市ではそれを補助することもやっております。

一番大事なことは、皆さんの目で、あそこがちょっと危ないとか、こういったところはどうかなって話し合っ、普段から見ていただくことじゃないかなと思っています。知らない人や見たことがない人が歩いているよとか、地域が防犯に対して目を向けていれば、その地域にはなかなか入りにくくなります。皆さんで話し合うことが非常に大事なかなと思います。

(自治会) 防犯カメラの設置で犯罪件数が減ったという事実はないとのことですが、よくコンビニなんかで設置しているのが、何かが起こったときに、そのカメラに映っている映像を警察等が見て、犯人像が割り出されるということがあります。だから、住宅地で何かが起こったときに、その映像を警察の方が見られて、犯人像を割り出すという役割もあると思いますけど、その辺はどのように考えておられますか。

(芦屋市) コンビニとか自分の家に、確かにつけておられることもございます。そういった意見もあるのは事実でございます。

今回、平成28年につけた防犯カメラ80台が設置から7~8年ぐらい経っていますので更新をしていきます。カメラについては、機能がアップしていますので、もし犯人が逃げていったときにも画像がよく分かるようになります。昔はあまり見えなかったんですけど、精度がアップした形での更新を市の方も考えております。

(自治会) 今の回答は、私の質問に対する答えになってないと思います。防犯カメラの映像が、捜査の犯人像の割り出しに役立つのではないかと

いう話なので、ちょっと今の話は合点がいかない。

(芦屋市) 芦屋警察署長さんと話しまして、まさに犯人割り出しってどうな
んですかみたいな話をしたことがあります。防犯カメラの映像を使っ
て犯人を割り出すことは、もちろんそれは事実としてあるみたいで
す。市がつけている防犯カメラもありますが、警察でも幾つか設置して
いるんです。実はそっちの方で、いわゆる犯人捜しというか検挙のため
に使っているという話を聞いています。ですので、市で設置している
防犯カメラが全てではなくて、警察やお店、個人宅で設置している防
犯カメラもあります。犯人検挙の際には、そういうところも、もちろ
んお願いベースにはなるんですけど、駆使してやっているという話は
聞いております。

(自治会) 先ほど、自治会長が言われている話と、市からの回答がずっとず
れていると私は思っているんです。基本的に防犯カメラは、抑止力を
言わなきゃいけないと思うんです。例えば、芦屋市が全国で一番、住
民当たりの防犯カメラ設置率が多い、防犯カメラ設置率日本一のまち
ですとなれば、これは一つの抑止力になるとは思いますが、ただ黙っ
てつけていたら、誰も分かりません。私の家の角地にも防犯カメラが
ついていますが、そこに防犯カメラがついていることをうちの町内会
の人はほとんど知らないです。だから、防犯カメラをつけても犯罪の
抑止にならない。アピールそのものが基本的に大事だと思うんです。
市長さんの施策としても、例えば「芦屋市は日本一の防犯カメラ設置
率をやります」と言えば、これはこれで住民の支持も本当に高くなる
と思います。今までみたいにただつけているというだけでは、犯罪の
抑止になりません。黙ってつけていたら、住民も気がついてないから
何の意味もない、単なるお役所仕事ですよ。だから、ここをもうちょ
っと改善しないと、こんな会自体、意味がないと思います。

(芦屋市) 黙ってつけているというか、どこについているかをホームページ

でお見せした方がいいんじゃないかという声も、確かにあります。それをお見せすると、今度は犯罪者側が、ここにカメラがあるんだなって分かってしまう。ただ、防犯カメラには防犯カメラですと、ちょっと分かりにくいかもしれないですけど、つけております。確かに、増やせばいいと言われますが、どこまで増やすのかがなかなか難しいところですよ。阪神間でいっても芦屋市が特段低いわけでもなくて、真ん中ぐらいです。今回防犯カメラ80台を7,000万円ぐらいかけて更新していきますが、そういった部分にも一定のお金がかかります。それでもつけろという声も確かにございますが、どうバランスを取っていくか非常に難しいと思っております。意見としては、お聞きいたします。

(自治会) やっぱり芦屋は、全国に冠たるお金持ちのまちだと言われて、阪神大震災の後でも変な泥棒がいっぱい来ました。狙われているまちということでは、全国で非常に有名なまちです。

だから、防犯の広報を上げていくこと自体をしてくれということと、ただ単に防犯カメラを増設してくれということは、少し違うと思うんです。そこは、ちゃんと理解していただきたいです。結局みんな、家にセコムつけているじゃないですか。セコムのシールが一番お守りになると。そうでもしておかなきゃ、本当にどうなるんだということで、皆わざわざお金かけて、家の前にセコムのシールを貼っているわけです。それは防犯のためですよ。やっぱり、そこを考えていただきたいと思えますね。

(自治会) 補助金を使っても、他の経費で大変なお金がかかるということで、無理だなという話になったときに、個人のおうちが公園を取り囲んでいるから、個人のおうちから公園を映すというか、そういう設置の仕方は市から許可がもらえますか。

もう1点。公園に東屋があるんですけど、夏に不審者がいたり、夜遅くまで迷惑行為されたりする方が毎年出てくるんです。ダミーの防犯カメラをつけたらどうかという話もありますが、それについては

でしょうか。

(芦屋市) どこまで防犯カメラに映っているか、どこまで大丈夫かという話になるかなと思いますので、もう少し細かなところは道路・公園課にご相談いただければと思います。ダミーの件ですけど、我々もりんごの木を植えていたときによく取られたりするときもあったので、ダミーの防犯カメラをつけたときもあったんですが、ダミーって分かるのか、遠くのほうからだと分からないのかもしれないですけど、なかなか難しいところもありました。今はダミーが精巧にできているかもしれませんが、工夫の仕様があるかもしれません。この件についても、道路・公園課にご相談をいただければと思います。

(自治会) 市の防犯カメラは、たしか平成30年頃につけられた80数台。これは、通園通学路を中心に設置したと聞いています。犯罪が多い場所、子どもたちが通る場所で犯罪があってはいけないと設置しているのもありますし、交通事故の点もあるんですけど。そもそも市で設置されたのは、繁華街とか、泥棒が多そうな場所に設置していない点を、先に説明していただいたほうが、皆さん、誤解されないんじゃないかなと思います。

(芦屋市) ありがとうございます。先ほど私が申しましたように、子どもの連れ去りがありましたので、通学路をメインに設置したのが経緯です。そういった目線で見えていただいて、通学路でここは危険だな、危険じゃないなということをPTAなど地域のたくさんの方々と点検して、設置していったのが、現在149台ございます。繁華街につけるようなカメラではなくて、子どもたちの通学路などに設置しているので、そういった御理解をいただければと思っております。

(自治会) 私どもの住宅内に32台の防犯カメラをつけています。通学路や一般の方が通るところが映っていますので、警察の協力依頼があれば、

時々提供しています。防犯カメラを設置する上で問題になるのは、電源です。つけたいところに電源がない場合は、電源を引っ張らないといけない。カメラ本体だけではなく、設置費用をある程度持ってもらうないと、なかなか難しいと思います。うちの住宅の前に、ATMがあって、そこで換金をした人がどこへ逃げていったかを教えてくれと言われるんです。そこには、うちのカメラがないので、その御協力もできないですけど。そういったことを設置するときには一定の御相談もしながらやりたいとは思ってはいますが、助成制度との差がありまして、なかなかうまく回らないのが現状であります。

(芦屋市) 電気代とかその後の維持費について、確かにご意見はございます。我々も予算という形で確保しているところですが、実は、市と県と出合って補助をしていますが、県の補助が少なくなって、市の比重が大きくなっており、市が一生懸命頑張っている状況です。今後も皆さまのお声を聞きながら、工夫していきたいと思っております。

(3) テーマ3：まちづくりについて

(自治会) 「雨水枿の清掃については、街路樹管理センターへ連絡してください」と質問NO. 3で回答をいただいておりますが、街路樹管理センターで他に対応していただけることはあるのでしょうか。

(芦屋市) まず、雨水枿の清掃は、地域でも対応していただいているところがたくさんございます。ありがとうございます。

道路の雨水枿に落ち葉とか泥がたくさん詰まっている場合には、街路樹管理センターがありますので、こちらにご連絡していただいたら、現地を見に行つて、清掃をいたします。街路樹管理センターですが、街路樹とか公園の木、公園樹といいますけど、公園の木が家の敷地に入っているときとか、道路の枿や溝に土砂や落ち葉が詰まっているとか、道路の外灯ありますよね、外灯、照明灯ですか、公益灯とい

ったりもしますけれども、そこが消えている場合にも街路樹管理センターで対応をいたします。

街路樹管理センターのほかに、道路公園管理センターもございます。そこは、本来の道路の不具合、道路の舗装の傷み、穴が空いているとか、アスファルトがめくれている、道路の白線が薄いとか、道路の車止めとか道路の柵が破損している。それから、公園の遊具が壊れているとか、水飲みの水が出ないとか、公園の中の園路が壊れているとか、公園のトイレが流れないときには、道路公園管理センターがございます。道路とか公園が破損している場合には、ご連絡ください。

(自治会) 潮見町は震災で液状化現象を起こした地域で、雨水柵にたくさん砂が入り込んでいます。私の家の前の雨水柵に関しては、木が生えてきています。そこは、蓋を自分で開けられるような蓋ではないので、要請しないといけないと思いますけど、これは街路樹管理センターですか、それとも道路公園管理センターですか。

(芦屋市) これは、街路樹管理センターで結構です。我々も見回りをしていますが、全部の確認ができないので、お気づきの点がございましたら、ご連絡ください。

(自治会) きれいなまちづくりを市長は推進されていますが、私が思うには、芦屋市って、公共施設を造ったら、造りっぱなしで、結局、メンテナンスが全然されてない。例えば、芦屋川沿いに鉄のポールがずっと並んでいますが、さびだらけで汚いです。そこに鎖のチェーンで歩道と車道の間を区別していますが、それもさびだらけです。ペンキを塗れば済むのに、ほったらかしにして、これできれいなまちづくりというのが、私には理解できません。

話が飛びますが、遊園地で言えば、多くの遊園地が日本から潰れ去っています。昼間に見れば本当にお化け屋敷みたいになっていて、値段をいくら安くしても、子どもも大人も来ない。でも、ディズニー

ランドは、海辺にあるから、毎晩毎晩ペンキを塗って、さびが一つもないようなきれいな遊園地で、値段を高くしても客はいっぱい来る。ヨーロッパに行っても、どこ行ってもきれいにペンキを塗って、100年たっても、鉄の橋でも何でもみんなきれいです。芦屋市はさびだらけの状態なのに、きれいなまちづくりというのが理解できない。予算の問題も費用の問題もあるでしょうから、例えば私みたいに、仕事を終えて暇な人間もおりますので、専門のペンキの塗装屋を指導につけて、ボランティアでまちを塗装していくことをしても、民業圧迫にもならずにはいいのではないかとと思うんですが。きれいなまちづくりを、市民と市とみんなで行っていくのも一つの在り方ではないかと思いません。

(芦屋市) やはりまちが整備されて、維持管理にかかる費用はどんどん増えていきます。危険な箇所にもどうしても予算が圧迫されていくというか、維持管理になかなか費用が回らないのが現実です。そんなこと分かっているという話だと思います。そういった部分も含めて、私たちも手伝うんだという言葉は非常にありがたいと思います。これから、行政だけでなかなかできないこともあります。過去に、ぼろぼろになった動物の公園遊具があったんですが、これをどうしようかというときに、地元の自治会さんにもお声がけさせていただいて、子どもたちを集めて、一緒にペンキを塗ったことがあります。我々が思っていないような、亀さんが黄色になったりとか、キリンがカラフルな色になったりしたんですけど、それはそれで置いておこうとなりました。このように、地元の方々と一緒にペンキを塗って、造り上げた公園もごさいます。今後も安全に配慮しながら、地域の皆さんと一緒に造り上げていきたいなと思います。

(自治会) 回答書9ページに、「移動道路と生活道路を区別する安全対策」と書かれています。これに対する回答がきちりできてないように思うのが、まず1つ。そして、生活道路と移動道路の区別が芦屋にとっ

ての大問題だと思えます。神戸と大阪の間にある芦屋、東西の通行する車の数は非常に多いと思えます。そういう中で、芦屋市がもし、生活道路という形でのブロック化ができれば、本当に住みやすいまちになっていくと思えます。今、私は大原町にいますけど、車の数はひどいものです。通学のために、子どもたちが道路の端を歩いているわけですけど、そこに山から下りてきて東西に抜けて、猛烈なスピードで動いていく。京都で通学路の子どもたちがはねられた事故がありましたけど、ああいった事故は必ず起こると思えます。

そういう意味からも、移動道路と生活道路を区別するのも、本当に市長が考えていただいて、これが解決できれば、人口がまだ増えるようないいまちにできると思えます。

(芦屋市) 言われるように、生活の細街路ですか、生活の中にあるような道路に、抜け道のような形でそういった車が入ってくるのは、これはよくないことです。それはモラルの話にもなってきますけど、例えば看板をつけたりそういう工夫はしています。また、抜け道というか、ここを通ったら早いみたいなことを認識させないように行政も考える必要があると思っています。今、ここで具体的にこうですよという答えがなかなかお示しできないですが、警察さんとも協議しながら進めていきたいと思っております。

(芦屋警察) 生活道路についてですが、限りある警察力の中で、通学時間帯に制服の警察官が立って見せるのも、一つあります。さっき言われました、抜け道になっているところを何とか交通規制するのも一つの案ですが、規制をかけることによって、逆に、また違う道が危険になる可能性があります。

先ほどありました大原町の件は、個別的にまたお話できるのであればさせていただきますので、よろしく申し上げます。

(自治会) ベビーカーは、やっぱり通りにくい。道路が傾斜していると住民

の方からそういう要望がありましたので、ぜひ対応をお願いします。

(自治会) 回答書の4ページに戻っていいですか。市のほうで、公園の除草・剪定を年2回されているということですけど。私の自治会で春と秋に自治会費で除草・清掃活動をやっています。例えば潮見南の公園をいつ除草・剪定をされるか、事前に地元自治会に連絡をしていただけたら、予定が重複したりすることがないと思うんです。1か月以上前に、ここはいつ頃するよと連絡をいただきたいです。

(芦屋市) 過去には、予定をお示ししていたことがありましたが、除草業者が順番に行っていく中で、雨等で作業日はずれる可能性が高いので、予定を事前にお伝えすることは難しいです。ただ、言われていることもよくわかりますので、道路・公園課にお問い合わせいただければ、いつ頃かというのは、お示しできます。

(自治会) 非常に難しいのはわかりますが、できるだけ直近のホームページ等で公表してほしい。

(芦屋市) 過去にお示ししたら、できていないとすごく怒られたこともあり、申し訳ないですけどホームページに公表は御遠慮願いたいです。

4 懇談第2部：公共施設等の今後について（自治会同士の意見交換）

(1) はじめに

(天井会長) こちらは、初めての試みです。「公共施設等の今後について」を今回のテーマとしたのは、回答書の13ページと14ページに公共施設についての質問が出ていました。そこで皆さんと一緒に考えたい。

まずは、公共施設のメンテナンスについて。公共施設を維持していくには、メンテナンス費用は必要です。このお金をどんどん入れて、何十年も維持させたほうがいいのか、いや、新しく建てたほうがいいのか等、いろんなことを考えながらやらないといけない。ましてや、公共物は私たちの税金が使われていますので、非常に考えないといけないことだと思えます。

また、新しい施設を造ることについて。芦屋市の人口はだんだん減っていく予想です。人数が減っていく中、新しい施設をたくさん造るとなると、それだけ維持費がかかってきます。私たちの税金が使われます。また、ほかの部分に予算が使えなくなる等のいろいろな問題点が出てくる。

実は、市からの回答に「公共施設等総合管理計画」、「公共施設の最適化構想」の2つの言葉が出てきました。調べましたら、人口とかそういったものの中で、どれだけ公共施設を造ったらいいかという一つの骨子でした。調べ出すと、「何かややこしいな」「自分たちの財布の問題だな」と考えるようになりました。

皆さん、ここでひとつこの問題を提起いたします。造るものは造る、減らすものは減らす、いろんな意見があるかと思えます。その皆さんの気持ちを、ここにいらっしゃる役所の方に聞いてもらいたい。そして、今後の行政に生かしていただきたいと思っております。

(2) 公共施設等の総合管理計画について

(芦屋市) 平成26年に総務省から、全自治体に向けて、公共施設の総合管理計画をつくってくださいという形で要請がございました。それに基づきまして、芦屋市では平成29年に公共施設の総合管理計画を策定

しております。

この背景には、昭和40年から50年ぐらい、ちょうど日本が高度経済成長期のとき、人口がどんどん増えました。それに伴って、インフラが整備をされて、公共設備が整備をされて、40年以上が経過しようとしております。本市の施設が建った時期もちょうど同じ時期なので、見直しをするのか、建て直しをするのか、改修をして長持ちさせるのか、そういった時期が今、来ているところでございます。

現在、人口が減少し、働き手という世代が著しく減っています。財政状況もなかなか厳しいところがあります。ただ、市民サービスは、しっかり維持をしていく必要があります。しっかり各自治体が公共施設の適正な配置等を計画立ててくださという使命を受けて策定しましたのが、この計画でございます。

なお、今年から来年度にかけまして、見直しを進めているところでございます。皆さまのお声も聞きながら、取り組んでまいります。

(3) 自治会員同士の意見交換

(自治会) 今の天井会長の話にしる、行政の公共施設最適化にしる、どうも行政のペースで進められているように思うんです。今、日本の人口は全体に減りますけれども、選挙で各候補者とか党首が言っているように、人口が減る中でやらないといけない都市間競争が始まっていて、まずは投資が必要です。お金、お金という前に、都市間で人口の取り合いをやる。若い世代が集まるまちにするためにどうするか、投資を考えないといけない。ところが、お金の話が先出てくる。やっぱりここがおかしいと思います。

芦屋市は一般市で、中核市だとか、あるいは神戸市みたいな政令市みたいに権限がない。なおかつ市の職員さんが、80%を超えて芦屋市民じゃない。真面目に仕事やっておられるけど、芦屋市の先に対して投資という面では、財政の均衡みたいなことばかりです。また、芦屋市は、地方交付税の不交付団体になっています。限度いっば

いまで市債を発行してでも投資をやらないと、芦屋市は他市と合併しないとやっていけない状況になるんです。だから、もっと真面目に芦屋市のために投資をしてほしい。投資方法はいっぱいあると思います。第1部で出ていたように、防犯・安全では誰が見たって近隣のまちよりも素晴らしいというのも1つ。あるいは、幼児教育。精道小学校は150年前にできていますから、割と先進市だったんです。今は、近隣市よりも、学力の面ではどちらかというと劣にあります。だから、子育ての世代が寄ってくるために、何をしたらいいのかも考えないといけない。

また、阪神電車が下を走っているのは、芦屋市だけです。打出の踏切で死亡事故が起きています。都市を横断する、高架にしようというのは国の政策です。市はお金がないと言うんだけど、お金はほとんどかかりません。55%は国から出るし、地方自治体、県と市で分担したら、そんなにお金がかからないです。ただ、近隣住民との交渉を嫌がるんです。だから、もうちょっと魅力あるまちを残すために何をするのか、市民の側も、行政ペースに巻き込まれ過ぎないように頑張りたいなと思います。

(自治会) 今の方の発言は、それはそれで素晴らしいと思うので賛成するんですけど。それだけで話すと内容が偏ってしまうので、別の側面からもう一つだけ、話題提供させていただこうと思います。

回答書を見ると、集会所が1つの焦点になっているように思いますので、集会所の今後の利用方法とか在り方について、意見を言いたいと思います。

今年、東京江戸川区に1か月ほど滞在して、0歳児と6歳児の孫の子育てを手伝った経験があります。東京都江戸川区は若者が暮らしやすいまちとして注目されています。葛西臨海公園があつて、隣にはディズニーランドがすぐ見えます。集会所に相当する施設がコミュニティ会館、コミュニティセンターという名前で造られていて、割と大きい建物が多いです。それが、結構な頻度であつて、自転車ですぐ幾

つか渡りあるいて行けるような距離にあるんです。そして、1つのコミュニティ会館にある図書室で本を借りると、それを別のコミュニティ会館の図書室で返しても構わない。結構な頻度で子どもたちや御老人が利用されていて、非常に便利につくられているんです。子育てに力を入れているまちは、図書館を便利に利用できるようにしているんだなと非常に驚きました。

一方、芦屋市の図書館を見てみると、市立図書館があつて、ごく限られた分室が何か所かあるだけです。子どもが増えてほしい場所にはどんどんそういう工夫をされたらいいなと、つくづく思いました。行政は市民に対して公平、平等に扱わないといけませんが、負の側面としては、画一的に扱われることがあるので、地域特性を考えて集会所の利用方法、規模等を柔軟に考えてほしい。もう少しいろんなニーズを拾い上げながら、柔軟に対応できるようなことを、それこそ新しい投資をするという考え方も取り入れながら、やられたらいいのではないかなと思いました。

最後に一点だけ。いもり谷の自然観察ができるように、市役所の環境課だけではなく、奥池集会所にもいもり谷の鍵を預からせていただきたい。芦屋市の貴重な自然保護区ですので、地域の住民やハイカーの人たちが気軽に立ち寄って、いもり谷を見学できるような仕組みをつくってほしい。費用も特にかかりません。先ほど言いましたように、画一的な対応ではなくて、地域の特性に応じた様々な試みを拾い上げていただくようお願いします。

(自治会) 今の意見に非常に賛成です。大事なのは場づくりで、教育にももちろん関係します。特に若者、子ども、老人の場をつくっていく意味で、集会所はすごく大事だと思います。そういう意味では、皆さんの意見にも出ているように、もっとお金を投資すればいいと思います。例えばA1環境をどんどん入れてデジタル化していけば、これからの世代の市民のためになる。さっきも意見があつたけれども、市の財産の使い方の方向が間違っていると思います。そういう方向に、もっと

もっとお金を使うべきだと思います。今の駅前再開発なんかも、反対していたんです。要するに、そんなところに100億、200億円投じるくらいなら、集会所に少し資金を入れるだけで、随分この芦屋は良くなると思います。

それから、道路の問題もそうです、県がどうこう、県道がどうこうじゃない。自分たちの生活の道路はすごく大事なんです。それを市長の立場でどんどん県にも国にも言ってほしいです。そうじゃないと、市は発展しないと思います。

(自治会) 芦屋市は、市民の力で盛り上げてきたまちです。本当に多様な能力を持ってらっしゃる方がいて、まだまだ発揮していない方のほうが多いと思います。そういった能力が発揮できる場所として、集会所とか市民が自由に使える場所はすごく貴重だと思います。人口が減ってきたから、その割合で集会所を減らすというのは間違っていると思います。

茶屋之町の集会所では、若い人と高齢者が交流できる空間にしていこうという動きになっています。役所がいつも、市議会でもそうですけど、利用率がどうだこうだって。利用率が低いなら、利用率を高めるためにどうしたらいいのかという工夫をもっと考えないといけないのに、その現実だけ見て、管理費を減らそうとか、そっちの方面から結果を先に求めるのはやめてほしい。市民力をどれだけ高めていくかが大切。高齢者と若者は最もコミュニケーションを取りやすい。おじいちゃん世代、おばあちゃん世代と孫の世代が世の中をつくっていく原動力になって、その間の人たちは働くほうに力が集中してしまうので、まちづくりには向かないんです。その辺を大切に考えてほしいと思います。

(自治会) 昭和39年、内海市長がつくりました芦屋市民憲章ですよね。高い文化と豊かな教養、自然を大事にして、子どもをうまく育てましょう。当時の芦屋をうたって、それをブラッシュアップして、もっと魅

力的なまちにしましょうというのが、あの市民憲章の精神です。芦屋市のアイデンティティです。基本理念をきっちりと示していただいて、人口が減る中で、芦屋市が生き残るために戦略を提示してもらってから個々の施策へ落とししてもらおうようぜひお願いしたい。

(自治会) これからいつ発災するか分からない状態の中で、どういう形でこの市を保っていくか。施設だけでなく、発災したときに手伝いができるような関係も大切だと思います。建物は造るのは幾らでもできるけど、現実的に言えば、造れば造るほど、その維持費はかかってきます。新しく建てるには、市債でも発行して造れという話もありますけど、いつかは返さなきゃいけない。この中で、私たちは5年、10年しか生きられません。けれども、若い人たち、残った方がそれを背負っていくわけです。私たち年寄りには将来に対して、どう責任を持てるかを考える必要があります。

阪神でも高架化は必要だと思います。実現すれば、事故も減るでしょうし、便利になるかと思います。まずは、人にずっと住んでもらえるまちにしなければいけない。ただし、年金も安くなって、医療費も高くなって、芦屋は住みにくいという声も出てくるかもしれません。その辺りの舵取りをするのが、行政の長たる者のリーダーシップだろうと思います。そのリーダーを選ぶのも私たちです。そういったことも考えながら、選んでいかないといけないと思います。

(自治会) 自治会活動とかまちづくりは、人のコミュニケーションが一番大事だと思います。人の集まる集会所は、すごく大切と思っています。

私の地域の集会所では、学生がお年寄りにスマートフォンの使い方を教える教室があります。回答書に記載されている芦屋のFree Wi-Fiを使っている方は、一体どれぐらいおられますか。私は使用したことがありますが、ほとんど使い物になりません。青少年センターの中にもありますが、子どもたちも全く使えないと言っています。今の時代、Wi-FiとかITのものを使いながらのコミュニケーションはす

ごく大事だと思いますし、使えない方に教えていくのもWi-Fiがないと難しいです。集会所にもともと、管理人さん用にインターネットが引かれているので、それをメッシュWi-Fiとかで飛ばしたほうが使えるんです。メッシュWi-Fiとかを各集会所に置いてもらったほうが、芦屋のFree Wi-Fiよりも費用負担が少ないと思います。

また、秋祭りを今週末に予定しています。雨の場合、食材など買い込んだものを皆さんに買っていただくために、集会所をお借りしていますが、営利目的は駄目だという話を聞きました。宮塚公園をリフォームする際は、市民が自由に使えて自走できるまちを目標とする。バザーとかイベントで得たお金を自分たちのまちを管理する資金に回していくとお聞きし、それはいいなと思っていました。なのに集会所では、バザーの赤字を出さないために品物を売るだけの販売すら許可を得られません。自分たちで防犯カメラやメッシュWi-Fiを買うこともできません。自分たちのまちを自分たちの力で広げていって、稼いで維持する方向にしていきたいのであれば、そういう制限をもうちょっと優しくしていただきたい。

(自治会) 人口がどんどん減っていく日本ですね。会長も言われましたけど、あと10年、20年で皆、ここにいる人はいなくなってしまう。私はずっと自分で自戒しているのは、声高な少数派が利益を取ってはいけないと思っている。後に残る人たちのためにお金も残していかないといけないのに、極端に言えば集会所で麻雀するためだけに税金を使うなんて言語道断だと思う。そういう遊びのために大切な税金を補填するなんて、何を考えているんだと思います。今、人口もドイツに抜かれて、GDPは世界第4位、1人当たりのGDPは世界で37位。貧乏化、貧困化が始まっています。日本人1人当たりの所得も低く、今の若い人は本当に大変だと思います。そういう中で、芦屋はどういう都市を目指すのか。所得が低い若い人たちに来てもらうようなまちをつくるのか。あるいは、所得が高い人に来てもらうようなまちをつくっていくのか。そこから考える必要があると思います。よく考えな

いと、ただの阪神間にある単なる一地方都市で終わってしまいます。芦屋ブランドなんて昔の話で、今は何もない。どんどん単なる普通のまちになっていきます。芦屋はどんなまちを目指すのか、これこそ市長さん以下、みんなに一生懸命説いていただいて、そこで共感を得ていただいて、目指すべきまちにしていけないといけないと思います。その中で、人口が減っていくのに、行政も今までどおりの職員の数が必要でしょうか。スリム化は絶対に大切です。官が栄え、民が衰退する、これが典型的な今の日本です。こんな中で、集会所を高齢者のために建てるとか、そんなことを言っているのかなと思います。衰退する日本で、自分のことだけでなく、後に残る子どもたちや孫のことを考えていけないといけないと、皆さんが共通の認識を持っておかないといけない。

(自治会) 芦屋市は1960年くらいまで奥池の水を使って水力発電をやっていました。それから、芦屋の4分の1か3分の1の水は、奥池の水を使っていた。やっぱりこういう自立が必要だなと思います。再生エネルギー等に特化していけば、エネルギー的にもある程度自立したまちとして、1つの売りになるのではと思っています。

(自治会) 生まれてからずっと阪神間にいますが、本当に芦屋は住みやすい。こんなに緑が多く、まちが整備され、景観が良いところは他にはなかなかない。だから、こんな素晴らしいまちにもかかわらず、人口が減っていくのは非常にもったいない。日本の中でも誇れるまちだと私は思う。だからこそ、人口を増やしていく方向と方法を何とか考えてもらいたい。今、衆議院選挙で学校の無料化と各党が言っていますが、それだけでなく、もっと他の方法で住みやすいまちづくりをしていけば、自然と人口が増えていくに違いない。

高島市長が教育に力を入れておられますが、これをもっとアピールして、若い世代が芦屋に住みたいなと思ってもらえるようなまちにしてもらいたい。

(自治会) 投資を呼び込む、若い人を呼び込む、そういうのもいいですけど、普通のまちでうまくシュリンクしていく方法を第一に考えてほしい。

(自治会) 中学生の息子と友達が、居場所の一つとして自治会活動に参加してくれています。彼らに言わせると、もうちょっと格好いい大人を見たいなという声をよく聞きます。

県芦に行けない高校生は、市外の学校へ行きます。そこで市外の友達ができ、市外の方が住みやすくなってしまふ。子ども会は小学6年生ぐらいまでしか所属できず、中高生たちが疎外されたまちななっています。第1部で話があったような、さびのペンキ塗りみたいなことを学校の授業の一環としてやってくれば、自分たちが作った場所を誇りに思い、中高生にとっても住みやすいまちななになると思います。

5 閉会あいさつ

○芦屋市自治会連合会会長 天井 裕一

いろいろな意見が出ましたが、皆さんおっしゃっていること、それぞれ一理あります。今後もこのような機会をつくっていきたいと思います。本当の年寄りの力は、いろいろな経験によるものだぞと、若い人にも分かっていただいて、これからの芦屋をつくっていただきたいなと思っております。

○芦屋市長 高島 峻輔

今、芦屋市が一番大事なのは、人口減少にどう対応するか。住宅都市ですので、大きな会社、法人がない。個人市民税にほぼ依存している都市ですので、人口減少の影響が大きい。

そこで、人口減少に対して、緩和と適応の2つをやろうとしています。

1つ目は、人口は減ってはいくが、どう角度を緩くするか。こちらは、亡くなる方と生まれる方の差が大き過ぎるので、相当厳しいです。

2つ目は、少しずつ下がっていく中でどう対応するかが大事だと思います。その戦略をどうするのかという話がありました。それがまさに、私は教育だ

と思っています。芦屋市は、20代は流出しています。ただ、30代、40代と20代未満は増えています。転入のほうが多いです。ということは、まさに子育て世代は芦屋を今、選んでくださっている状況です。このトレンドをどうやって続けるかという、やっぱり教育が大事だと思います。学校をよくしていくこともそうですし、学びは一生涯続きますので、それこそ先輩世代の皆さまも含めて、学び続けられる環境をどうつくるか、これが至上命題だと思います。

一方で、人口が減っていく中でどう適応するか、避けては通れないと思います。その中で、行政のスリム化という話がありましたけど、実は、人口減少に応じて、行政職員数は減っています。ただ、仕事は増えています。これをどう解決するかが結構、大変です。もちろん、いろんな新しい技術を使ったりもそうですし、民間の力を借りたりもそうですが、我々行政にしかできないことと、市民の皆さんといっしょにできることを、もう一回、ちゃんと考え直す大事な時期に入っているのではないかなと思います。

もちろん、今後、どんどん人口が減っていく中で、苦しい決断をしないといけないことがあると思います。ずっとこのまま続ければいいなと思っていたことも、これは続けられないなとか、これはやめないといけないなということが、今後、多々出てきてしまうと思います。ただ、そのときに、いや、こう決まったので、もう納得してくださいではなくて、こういう場でまさに、皆さんとのいろんな意見交換を重ねながら、でも、芦屋の将来のためには、こういうことを決めないといけないよねと、そんな対話をこれからも大事にしていきたいと思います。

人生100年時代です。未来にどう責任を持って、この芦屋を渡していくのかも考えながら、これから行政運営をやっていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。本日は、ありがとうございました。

— 以 上 —